

里庄町農業委員会総会議事録

1. 開催日時 令和4年7月12日（火）午後2時02分から午後3時28分
2. 開催場所 里庄町役場 庁舎 2階 第2会議室
3. 出席委員 12人

出席委員及び欠席委員の番号、氏名

職名	番号	氏名	出欠の別	職名	番号	氏名	出欠の別
委員	1	岡村 咲津紀	出	委員	8	原田 敬造	出
〃	2	高田 卓司	〃	〃	9	平野 耕平	〃
〃	3	高田 光國	〃	会長職務代理者	10	吉田 龍平	〃
会長	5	田邊 忠宏	〃	推進委員	1	小野 敏輝	〃
委員	6	辻田 檉市	〃	〃	2	佐藤 新介	〃
〃	7	仁科 義弘	〃	〃	3	徳永 一憲	〃

4. 欠席委員 0人

5. 議事日程

第1 議事録署名委員の指名

第2 会議書記の指名

第3 農業委員会における令和4年度農地利用最適化活動の目標の設定について

6. 会議の概要

議 長

ただ今から令和4年第7回総会を開会いたします。

本日の出席委員は農業委員9名、推進委員3名の計12名であり、総会開催の定足数に達しており、総会は成立しております。

議事日程第1の議事録署名委員の指名ですが、私から指名させていただいてご異議ありませんか。

(異議なし)

それでは、10番吉田龍平委員、1番岡村咲津紀委員にお願いいたします。

議事日程第2の会議書記の指名を行います。

本日の会議書記には農業委員会事務局職員の●●氏を指名いたします。

今月は、通知をしたように許可議案はありません。

先月、岡山県農業会議の●●次長を招き、国のガイドラインなどが変わり、我々農業委員会の活動がしっかり見えるようにするため、農地利用最適化の取組について、活動目標などを設定する必要があるといった説明がありました。今回、事務局の方でこの活動目標案を作成したので、事務局より説明をお願いします。

事務局

令和4年度農地利用最適化活動の目標の設定等という資料をご覧ください。近年農業が直面する様々な課題から農業委員会の役割として、農地利用最適化が必須業務となっております。農地利用の最適化の計画を定め、年度ごとに実績管理を行うように今年度から国から求められています。

この目標について皆さまで協議をしていただき、本総会でご承認いただいた後、町ホームページへ掲載し公表する流れになります。

目標設定の内容について説明いたします。

I. 農業委員会の状況。里庄町農業委員会の現在の体制や、農林業センサス等から統計情報として農家数や耕地面積等を記載しています。

II. 最適化活動の目標、(1)農地の集積、①現状及び課題については、管内の農地面積は155ヘクタール、これまでの集積面積が8.1ヘクタール、集積率が5.2%となっています。集積にあたっての課題は、農業従事者の減少、高齢化による遊休農地の増加です。町内全域について零細農業者が多いため、今後作業の能率化を図るために利用集積を進めていく必要があります。

②目標。農地利用集積の目標年度を令和12年度にしています。昨年度策定した基本構想と同じ目標年度にしています。集積率については30%としています。これも基本構想と同じにしています。今年度の新規集積面積については2ヘクタール、農地の面積が155ヘクタール、令和4年度の集積

面積を 10.1 ヘクタール、今年度末の集積率を 6.52%としております。

(2) 遊休農地の解消、①現状と課題について、昨年度の農地利用状況調査の結果になり、第 1 号の遊休農地の面積が 125 ヘクタールのうち、緑区分が 103 ヘクタール、黄色区分が 22 ヘクタールでした。

②目標ですが、既存の遊休農地の解消として、昨年度の利用状況調査における緑区分の面積が先ほどの 103 ヘクタール、緑区分の遊休農地解消目標面積を 20.6 ヘクタールとしています。これは 103 ヘクタールの 5 分の 1 を計上することになっています。黄色区分の遊休農地解消面積は先ほどの 22 ヘクタールとしています。遊休農地解消のための工程表の策定方針としては、農地の利用状況調査の円滑な実施と、遊休農地の所有者等への指導ということ掲げています。

(3) 新規参入の促進、①現状と課題について、令和元年度から令和 3 年度の新規参入者の実績です。新規参入者は、令和元年度は 2 経営体で 0.5 ヘクタール、令和 2 年度は 1 経営体で 0.3 ヘクタール、令和 3 年度はゼロでした。課題としては、担い手総合支援育成協議会及び農協の生産部会等の会議で新規就農者や認定農業者の制度の周知をして普及に努め、また、新規に就農した者へ指導やサポート等を関係機関と連携して行うことが必要であるということです。

②目標としては、平成 28 年度から平成 30 年度の権利移動の面積としています。農地法第 3 条第 1 項に基づく許可面積になります。新規参入者への貸付等につきましては、農地所有者の同意を得た上で、公表する面積を 0.1 ヘクタールとしています。目標面積は過去 3 年度の権利移動平均面積の 1 割以上のため 0.1 ヘクタールとしています。

続いて、最適化活動の活動目標として、(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数の目標ですが、1 月あたりの活動日数を 2 日としています。お手元に活動記録セットをお配りしていますので、活動記録簿の記入方法について後ほど説明いたします。

(2) 活動強化月間の設定目標について、取組時期、取組項目、強化月間の内容について 2 項目あります。取組時期の 10 月から 11 については利用状況調査を毎年お願いしていますが、併せて農地の見回りもお願いします。また、12 月には農地中間管理機構のチラシを配付し、制度の周知を行うことを考えています。

(3) 新規参入相談会への参加目標ですが、参加回数を 1 回としています。開催時期、相談会名、参加者数、開催場所等については現時点では未定です。

以上の目標設定の内容につきましては、岡山県農業会議で確認、了承し

ていただいております。目標については以上になります。

議 長

ただ今の事務局説明について、ご質問、ご意見等ございますか。

● 番

最適化活動の現状のところ、集積面積が 8.1 ヘクタールになっているが、集積とはどういう形を言うのか。

事務局

認定農業者の方が引き受けたりして耕作していることを言います。

● 番

現状で引き受けるのは難しい。形が良かったり道があれば別だが。ほ場を移動するだけでも大変だ。地主さんが負担してまで区画整理はできない。

事務局

町としては、基盤整備の計画は今のところないため、厳しいかもしれません。荒廃化する前にチラシを活用して、機構への貸付から作り手へのマッチングにつなげたいという思いがあります。

● 番

新規参入しやすい条件が必要ではないか。形や道や水利など。補助金等を検討してはどうか。まこもには補助金が出るが、米だと出ない。儲けが出ないと荒廃化は進む。新規参入者はまこもの生産者なのか。

事務局

令和 2 年度は●●●●さんで、令和元年度は資料を持ち合わせていません。

● 番

農地面積 155 ヘクタール、1 号遊休農地 125 ヘクタールということは、実質作っているのは 30 ヘクタールということか。

事務局

統計上、単純計算だとそうなります。

● 番

令和 12 年度に農地面積 155 ヘクタールだが、開発等で減る可能性があるのでは。集積率も変わってくるのでは。

事務局

この計画は毎年作成します。農地転用等で減る可能性はあります。集積率は基本構想の集積率になっています。

● 番

人・農地プランを活用しないと進んで行かないと思うが、人・農地プランはその後どうなったのか。早急にしてほしい。

事務局

人・農地プランの次の候補地はまだ選定できていません。

● 番

機構のチラシ配付で制度の周知をするのは難しいので、SNS 等の活用も考えてはどうか。

耕作放棄地が増え、我々委員だけでは追いつかない。分館等の地域の力を借りて、地域の中でどうしたらいいか考えてもらっては。地区の人は影響を受けているはずなので、周知や話合いの場を設けては。

事務局

すぐには難しいが、検討してみます。

議 長

その他ご質問、ご意見等ございませんか。

(質問、意見なし)

それでは、この案について、賛成の農業委員の方は挙手願います。

(全員挙手)

全員賛成でございますので、この案を里庄町農業委員会の目標と決定し

ます。

以上をもちまして、令和4年第7回総会を閉会いたします。